

# 令和5年度後期 東予東中学校学校評価結果と改善策

西条市立東予東中学校

## 【学校生活】

「楽しく学校生活を送ることができている」の項目では、肯定的な意見が生徒95%（前期94%）、保護者90%（同91%）となっているが、生徒の「そう思う」が66%から73%に上昇しており、今まで以上に楽しく学校生活を送れる生徒が増えたととらえることができる。しかし、「いじめやいたずらでいやな思いをしていない」の項目では、「そうは思わない」と答えた生徒が後期も4%（前期4%）、保護者も10%（前期10%）と減少していないため、対応が十分でないことが分かる。現在、教員が休み時間や昼休みに廊下や教室で生徒と会話をしながら見守っており、トラブルを未然に防ぐようにしているが、今後はこれまで以上にアンテナを高く張り、相談活動の充実を図って、嫌な思いをする生徒が0になるように努めたい。

学習に関して、教員のアンケートで「教材を工夫し、生徒に分かりやすい授業の展開を行っている」についての肯定的回答が前期95%から後期90%と下降している。現在、ICT機器を活用した授業が求められる中で、各教科で教育効果が上がるタブレットの効果的な活用方法を模索している。タブレットを使った方が効果的なのか、そうでないのか、また、これまでのようなアナログの教具を利用した方が生徒の理解が深まるのか等、これからも研究を続け、生徒にとって最も分かりやすい授業が展開できるようにしていきたい。

「分からないところを先生や友達に相談している」では、後期は90%（前期85%）の生徒が分からない問題について解決を図ろうとしている。「学びあい学習」が十分定着しており、授業中では生徒同士で意欲的に会話をする姿が見られ、分からない課題に挑戦しようとしている。また、定期テストの前に実施している学習支援タイムにも積極的に参加する生徒が多数いる。今後も、「学びあい学習」を通して学習内容の定着に努めていきたい。

「学校は落ち着いた雰囲気での授業ができている」では、生徒の肯定的な意見は後期が64%（1年33%、2年72%、3年88%）で前期の66%（1年28%、2年84%、3年88%）と比較すると、1年生は若干上昇したもののまだまだ改善が必要なことが分かる。けじめがつきにくい生徒や授業中の取組が十分でない生徒への対応として、真剣に授業に取り組むことの意義を理解させることや、その場での毅然とした指導を徹底していかなければならない。加えて、生徒が夢中になれるような授業が展開できるように、教職員の授業力の向上も必要である。

「ホームページや学校だよりをよく見ている」では、後期も保護者の82%（前期81%）の方が肯定的な回答をしている。今後もホームページを毎日更新することを続け、より一層ホームページや学校だよりを充実させ、様々な面から学校生活の様子を発信していきたい。

「部活動は日々充実し、自分のためになっている」の項目では、実感していると答えた生徒、保護者は共に前期同様に80%を超えていた。各種大会で優秀な成績を残す部活動が増えている。部活動に目標を持って取り組ませ、部活動を通して専門種目の技術的を身に付けるだけでなく、言葉遣いや礼儀やマナーを学ばせることで、人としても様々な成長を後押しできるように、これからも活動していきたい。また、これまで通り、教員が部活動中に付くことはもちろん、練習開始前から下校時門を出るまでの確認を行い、安全や人間関係の様子を見守る体制も継続していきたい。

## 【家庭生活】

「地域や学校でよく挨拶をしている」では、生徒の94%（前期96%）ができていると回答しており、保護者の85%も挨拶ができていると回答している。今年度も生徒会が中心となって朝の挨拶運動を実施しており、挨拶の活性化に取り組んでいることも挨拶をする良いきっかけとなっている。挨拶は人と交わす大切なコミュニケーションの第一歩であることを意識させ、今後も活気ある学校の雰囲気づくりに努めたい。

「家庭で学校の様子や将来の進路、生き方について話をしている」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒が81%（前期73%）と増加している。3年生は進路決定の時期にあることや、1・2年生は職場体験学習や職業インタビューを通して、働くことへの興味や関心が高まってきていることが数値の増加につながっていると考えられる。今後もキャリア教育の充実を図っていきたい。

家庭学習について、「家庭学習の一日平均時間」2時間以上が20%（前期17%）、1時間以上2時間未満は45%（同47%）、1時間未満は28%（同32%）、していないは7%（同10%）であった。1時間以上2時間未満に位置していた生徒が2時間以上の方に移動した数値となっている。受験を控えた3年生の数値が高いが（2時間以上が36%、1時間以上2時間未満は38%）、1・2年生の学習時間が少ない。学力向上には家庭での学習習慣が重要であり、1年時からの積み重ねが大切である。生徒が家庭学習を習慣化できるように、教師側も宿題を精選するなど工夫していかなければならない。また、家庭学習減少の理由として考えられるのが、ゲームやスマホの過度な使用である。「家庭でゲーム機やスマホの利用についてのルールや約束ごとを決め、守っている」の項目では、83%の生徒が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えているが、保護者の回答は61%である。使用過多になることで学習時間が削られて学力が下がっていったり、睡眠不足になることで体調が整わなかったりする。学習や体調に影響がでないようなルールをしっかりと決め、それを守れるように保護者と連絡を取り合いながら指導していきたい。

「交通ルール（登下校中の並進をしない・ヘルメット着用等のルール等）を守れている」については、生徒・保護者ともに98%が高い評価をしているが、教職員のアンケート結果では81%と認識に差が出ている。下校時の生徒の様子を見ると、自転車での並進や一時不停止を見掛けることがあり、その都度指導している。先日、高校生がトラックに巻き込まれて亡くなるという痛ましい事故があったことから、警察署に交通安全教室を依頼している。今一度、一時停止や左右の確認等、基本的な交通マナーを確認するとともに、事故が起りやすい場所や、生徒が危険な横断をしているところなどを中心に見守り、交通ルールや交通マナー向上を目指し、事故を未然に防いでいきたい。

「朝食は毎日とっている」については、後期も6%（前期5%）が朝食をとっていない。朝食をとらないことで脳のエネルギーが不足し、イライラしたり集中力や記憶力が低下につながったりする。生活リズムを整え、健康的な生活を送るためにも、生徒全員が確実に朝食をとって登校できるように家庭に協力をお願いしていきたい。

後期のアンケート結果から得られた改善点や反省点を生かし、生徒の問題を早期に把握・解決できるよう、教育相談の時間をとっていきたい。また、生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、生徒に寄り添いながら学校生活の様子を見守り、必要に応じて保護者や関係機関、地域にも協力をお願いして指導していきたい。